



## 滋賀大学YouTubeチャンネル更新中！

本学の独自の教育や先進的な取り組みを、公式YouTubeで発信しています。このほか、年2回発行の広報誌では紹介しきれない大学のトピック、学生たちの日々の活動紹介、卒業生からのメッセージなどお届けしています。ぜひご覧ください。



滋賀大学のホットなニュースをお届け  
1分でわかる！SHIGADAI Weekly News



滋賀大学の先進的な取り組みを紹介  
SHIGADAI Challenge



豊かな人間性と創造力・構想力を培う  
滋賀大学のリベラルアーツ教育

動画は  
こちらから



滋賀大学広報誌 Vol.62

# しがだい

〔発行日〕 2025年11月  
〔発行〕 国立大学法人 滋賀大学  
〔編集〕 滋賀大学広報部会

滋賀大学総務課  
〒522-8522 彦根市馬場1丁目1番1号  
TEL 0749-27-7524  
E-mail koho@biwako.shiga-u.ac.jp



アンケートのお願い  
「しがだい」のより充実した誌面づくりのために、  
Webアンケートのご協力をお願いいたします。



学生広報サポートチーム考案  
カモンちゃんLINEスタンプ販売中！



LINE STOREを  
チェック！



カモンちゃん

日本の開国を主導した井伊直弼公をモチーフにした  
滋賀大学公式キャラクター。名前は直弼公の官位、  
掃部頭(かものかみ)に由来しています。滋賀大学に  
“come on”という意味も掛けられています。本学学生  
が在学中に取り組み生み出されました。

SHIGA  
UNIVERSITY  
Public  
information  
magazine

# しがだい

滋賀大学  
広報誌

Vol.  
62  
2025.11



教育学部創立150周年  
次世代を育む  
「みらい教師」を  
滋賀大学から



大津キャンパス 中講義室





滋賀大学講堂玄関前にて

## 学長メッセージ

# AIネイティブ大学を めざして

## 発展が著しい生成AIを活用した大学教育を展開

今年4月に、大学のキャンパスを社会により開かれたものにしようという「イノベーション・コモンズ」の方針にそった「イニシアティブ棟」が彦根キャンパスにオープンしました。この施設は2023年に採択された文部科学省による「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の支援により建設されました。企業等とのデータサイエンス分野の共同研究を主な目的とする建物ですが、1階は学生も集うオープンスペースになっています。また、豊かな自然と伝統に恵まれたキャンパスにふさわしく、アートや伝統の要素も取り入れた落ち着いた雰囲気建物となりました。このオープンスペースで学生がノートパソコンやタブレットを開いて勉強している様子が印象的です。

文系的なイメージのアートと理系的なイメージのデータサイエンスとは、一見別物のように思われるかも知れませんが、今後はこれらを組み合わせることが重要になってきます。一つには、最近の生成AIの発展があります。生成AIが注目されている一つの理由は、文章、画像、音楽といったアートの領域でも生成AIがすぐれた性能を発揮しているからです。

滋賀大学長

竹村 彰通

### Profile

1952年生まれ。1976年東京大学経済学部卒業、1978年東京大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専門課程修士課程修了。米国スタンフォード大学統計学部客員助教授、米国パーデュー大学統計学部客員助教授、東京大学経済学部教授、東京大学大学院情報理工学系研究科教授を経て、2015年5月滋賀大学に着任。2017年4月から滋賀大学データサイエンス学部長、2022年4月から現職。

生成AIによりデータサイエンスとアートが密接に関連するものとなりました。生成AIの発展を踏まえて大学の教育も大きく変えていく必要があります。今年4月に、本学は他の大学にさがけて OpenAI社のChatGPTの大学版であるChatGPT Eduを導入しました。OpenAI社は大学教育のインフラにAIを組み込む「AIネイティブ大学」構想を進めていますが、これは滋賀大学がめざすAI活用の方向性を表す言葉だと思えます。

また、施設整備事業の採択に続いて、「高度情報専門人材確保に向けた機能強化事業」に「ハイレベル枠」という高い評価を得て採択されました。これにより今年4月には大学院データサイエンス研究科博士前期課程の定員を昨年度の50名から80名へと大幅に増やしました。この支援により、現在彦根キャンパスの大合併講義室の建物を、大学院生室を備えた3階建ての「データサイエンスみらい創造館」に改築するための工事が進んでいます。これにより、特に大学院生の研究環境が改善される見込みです。イニシアティブ棟と共に、彦根キャンパスの新しい顔となります。

## Contents

学長メッセージ

### 01 AIネイティブ大学をめざして

滋賀大学長 竹村 彰通

巻頭特集

### 03 次世代を育む 「みらい教師」を 滋賀大学から

### 07 イニシアティブ棟が始動！

### 09 しごだいChallengers

卒業生インタビュー

### 11 輝く卒業生たち

甲賀市立綾野小学校 眞野 萌さん

フリーランス 菅 昌絵さん

花王株式会社 加藤 有紗さん

研究者インタビュー

### 14 活躍する研究者たち

経済学部 山下 悠准教授

国際交流

### 15 滋賀から海外へ 留学体験記

### 16 CLUB & CIRCLE

クラブ&サークル

### 17 ニュース&トピックス

### 18 滋賀大学へご支援のお願い

学生広報サポートチーム活躍中！

記事企画と制作(P14)、LINEスタンプ考案(裏表紙)など、大学の広報活動を学生目線でサポートしています。一緒に活動したい方は本学HPをご覧ください。



大津港



# 次世代を育む 「みらい教師」を滋賀大学から

2025年に創立150周年を迎えた滋賀大学教育学部では、日本の未来を担う子どもたちが  
激動の社会で子ども時代を十分に生き、未来を切り拓いていく力を育ていけるよう  
寄り添い支え、共に歩みながら教え導く「みらい教師」の養成をめざしています。  
教育学部長と卒業生、在学生が「みらい教師」について語り合いました。



写真左から、水上 夢琉さん、久保 加織教育学部長、三ツ井 将大さん、高見 俊樹さん

## 滋賀という環境と、 長年の実績に惹かれて進学

**久保** まずは皆さんが教師を志したきっかけと、滋賀大学教育学部に進学した理由を教えてください。

**三ツ井** 高校入学時に、野球で甲子園出場と国立大学進学という2つの目標を掲げました。無謀な挑戦だという周囲の声に反して、高校の先生は「必ず実現できる」と背中を押してくださったのです。結果、甲子園出場の目標を達成。先生とのやりとりから教師を志し、滋賀大学合格も果たしました。大津キャンパスで学ぶ教育学部生には教員志望者が多く、お互いに教師をめざして切磋琢磨できることに惹かれました。

ました。

**水上** 中学時代の先生が生徒一人ひとりに寄り添い、親身に指導してくださったことから教師をめざしました。小学校教諭を選んだのは、子どもとより長く、より密な時間を過ごすことができると考えたからです。地元の滋賀で学び、滋賀で教師になりたいと思い、高校の進路指導の先生に相談したところ、滋賀大学教育学部には実績が多数あると勧められ、進学しました。

**高見** 両親が教師で、すばらしい仕事だと思っていたことから教師を志し、父の出身校の滋賀大学教育学部に進学しました。理科が好きなので、琵琶湖の生物研究に打ち込めることにも魅力を感じました。

## PROFILE

久保 加織  
教育学部長

三ツ井 将大さん  
学校教育教員養成課程  
中等教育コース保健体育専攻  
2021年3月卒業  
八日市南高校(滋賀県)勤務

水上 夢琉さん  
学校教育教員養成課程  
中等教育コース保健体育専攻 4年生  
玉川高校(滋賀県)出身

高見 俊樹さん  
学校教育教員養成課程  
初等教育コース初等理科専攻 4年生  
西脇高校(兵庫県)出身

## ダイバーシティは児童・生徒の 個性を尊重し、寄り添うことから

**久保** 滋賀大学教育学部では、これからの学校教育に必要とされる3つの力を備えた教師を「みらい教師」として、その養成をめざしています。1つ目の力は、これまで重視し培ってきた教師に欠かせない確かな教育実践力、ダイバーシティ教育力、そして環境教育力です。ダイバーシティ教育については、現在、学校現場には障がいのある児童生徒、不登校やその傾向のある児童生徒、外国につながる児童生徒など多様な子どもたちが増え、対応できる教師がますます求められています。滋賀大学教職大学院においても、2021年に「ダイバーシティ教育力開発コース」を新設しました。

**三ツ井** 勤務する高校では、すべての生徒が安心して通学・学習できる「ユニバーサルデザイン」に力を入れています。私個人としては、学級経営において生徒に対して、一人ひとりにじっくり時間をかけて対応することで、安心感の醸成や信頼関係の構築を図っています。

**久保** 学生の2人は、特別支援学校教諭免許状の取得もめざして学んでいますね。  
**高見** 学習面や行動面に困難が見られる子どもが増えている現状を知り、特別支援学校教諭免許状を取得するための科目を履修しました。学び得た知識や対応力は通常学級でも役に立つと思います。

**水上** 誰もが共生できる社会をめざして今後は日本に暮らし、通学している外国につながる子どもにも対応できるよう、知識の幅を広げていきたいと考えています。

**久保** 3人ともダイバーシティについて前向きに学び、取り組んでいることを頼もしく思います。「みらい教師」の2つ目の力は、データサイエンスを教育において活用す

る力です。近年、学校現場で教育DX・ICTが進められていますが、教育学部でも本学データサイエンス学部と連携したデータサイエンスやAIの教育に力を入れています。これらを学生の2人はどのように学び、活用していますか。

**水上** 私は卒業研究で教師のフィードバックについて調べている中で、形成的授業評価を用いています。エビデンスを高めるために児童へのアンケートをはじめとするデータは欠かせないので、分析や活用の方法を先生に指導いただきながら取り入れています。

**高見** 私が取り組んでいる琵琶湖の貝に関する卒業研究にも、個体数と天候の相関関係の分析といったデータ活用が不可欠です。また、教育実習では、理科の授業で生徒たちに実験の目的やプロセス、めざす結果などを事前に動画で見せてから臨んだところ、全体をわかってから取り組むことができ、理解が深まったと好評でした。

**久保** 三ツ井さん、学校現場での活用の実状はいかがですか。

**三ツ井** 教育DXは文部科学省も推進しているので、学校でも積極的な活用が求められています。私は学生時代にマット運動の指導にICTを活用する研究をした経験から、生徒一人ひとりの運動動作を撮影した動画などを活用し、体育授業を行っています。自分のフォームなどを可視化することで生徒がその場で客観的に確認でき、上達に一定の効果が表れています。一方で、運動が苦手な生徒は動画で自分の姿を見ることに拒絶反応を示し、意欲低下を招く恐れがあるため、使い方や見せ方を十分に考慮してから活用しています。

**久保** 教育DXには教師のリテラシーが欠かせないということですね。私としては、データの活用やICTと並行して、これからも子どもとのリアルな体験も大切にしたいと思っています。

## 充実した独自の学びによって 「チーム学校」のリーダーに

**久保** 「みらい教師」の3つ目の力は、滋賀県で働くマインドの醸成です。地域に根ざした教育実践力の養成や人的ネットワーク作りが含まれます。子どもは地域で育てていく存在であることは今も昔も変わらず、学校は非常に大きな役割を担っています。そのため地域に根ざし、「チーム学校」として、団結することが欠かせません。

**三ツ井** そういった“チーム学校”において、滋賀大学教育学部出身の先生はリーダーシップを発揮していると感じます。勤務先



## 150年のあゆみ

1875年、滋賀県に設置された小学教員伝習所が教育学部の始まりです。150年の歩みを簡単にご紹介します。小学教員伝習所は、1875年のうちに滋賀県師範学校となります。滋賀県大津師範学校(1876-1880)、あるいは滋賀県尋常師範学校(1886-1897)などと称したこともありますが、おもに戦前は滋賀県師範学校の名で県内の教員養成に寄与してきました。一方、女子師範学校は、1880年に女子師範学科として設立されてから、複雑な経過をたどりながらも発展してきました。第二次世界大戦中の1943年には両校が統合して、官立の滋賀師範学校となりました。戦後の学制改革により、彦根高等商業学校と共に滋賀大学となります。初めは学芸学部と称しましたが、1966年に教育学部と改称し、今に至ります。



滋賀県師範学校附属小学校正門



滋賀県師範学校





をはじめ、滋賀県内の小学校、中学校、高校では滋賀大学教育学部出身の先生が多く活躍されていて、教員向けの勉強会や研修会で出会う機会が多く、互いに高め合えることもいいですね。

**水上** 卒業後もつながりがあると知って、心強いです。先輩である三ツ井先生に教えていただきたいのですが、どうすれば良い学級経営ができ、生徒や保護者と良好な関係を築くことができますか。

**三ツ井** 勤務先の高校は1年生から3年生までクラス担任が変わらないので、生徒とは1,000日以上もの時を共に過ごします。生徒それぞれに個性があり、将来の目標も家庭環境も異なるので、とにかく一人ひとりと徹底的に向き合っています。全員と個別ノートのやりとりもしていますよ。日常の些細な出来事へのコメントにも生徒は喜んでくれます。保護者との関係については、不安を抱くかもしれませんが、生徒と信頼関係を築いていると、生徒が学校での様子を、保護者に丁寧に伝えてくれているようです。

**久保** それはすばらしいですね。少子化や地域との結びつきの希薄化といった背景から、昨今は孤独感や子育てに不安を抱える保護者が少なくなく、これらが学校への意見の根底にある可能性も考えられます。

**三ツ井** だからこそ「一緒に子どもと向き合っていきましょう」という教師の姿勢と行動が、保護者の安心、信頼となり、不満解消にもつながるのではないのでしょうか。

**高見** 私からも質問です。三ツ井先生の教師としてのやりがいを教えてください。

**三ツ井** 辛いことや苦しいことを共に乗

り越えられた時がうれしいです。野球部の顧問もしているのですが、野球は私にとって人生の一部でもあるので、時間を忘れてのめり込んでしまうことも。教師の働き方の見直しが推奨される中、改善すべき点かもしれませんが…。

**久保** 教師は児童生徒にとって唯一無二の存在です。そのためには自分のことも大切にしてほしいですね。それが良い教育を実践するための心身の土台になると思います。ところで、滋賀大学教育学部の魅力はどこにあると思いますか？

**水上** 講義内容や教育実習支援が充実していることはもちろん、教員採用試験合格に向けてのサポートがとても手厚いことです。附属教育実践総合センターが実施している教師力養成サークル「教師のたまご」に参加し、「受かる力UP」というグループの活動で、過去の教員採用試験を基にしたリアルな対策をすることができました。

**高見** 滋賀大学教育学部には、理科教育において地域で中心的な役割を担う教員を養成する「CST(コア・サイエンス・ティーチャー)養成プログラム」があります。中学校の理科教員をめざす私は、このCST養成プログラムを受講しており、より質の高い理科教育について学んでいます。この経験は、教師としての強みの一つになると思います。

### 今も未来も教師は 「人のために、力を尽くす存在」

**久保** 最後に今後の目標と、三ツ井さんにはさらに母校と在学生へのメッセージをお願いします。

**高見** 「時代の変化に対応できる教師」が目標です。子どもも、教育の方法も日々進化しているので、教師はそれに対応していくことが必要だと感じています。学ぶという点では理科の楽しさを生徒に伝えるために専門性を極め続け、私から理科の魅力を知った子どもが日本の科学技術を支えてくれる、そんな礎を築ければと思います。

**水上** 子どもたちに教育的愛情を持って

深く関わっていきたいと思います。そして私も学び続ける姿勢を大切にし、大学で培った理論を授業計画や学級経営において、しっかり実践していくことも目標です。

**三ツ井** 2人が言うように、教師になっても学ぶことはとても大切です。私は今回話題にもなったデータサイエンスやダイバーシティの知見をもっと深めたいので、滋賀大学教職大学院で学ぶことも、ゆくゆくは検討したいと思っています。皆さんにお伝えできるなら、学校と子どもの未来には、最先端の教育実践力を身につけた若い力が欠かせません。教育への理想や希望をたくさん持って、現場に飛び込んできてほしいです。

**久保** これからの教師に求められるのは、すべての子どもたちの可能性を引き出す学びの実践と、デジタル技術やデータサイエンスを活かした教育の革新です。そこに実体験を重んじる学びを融合させ、学校や地域との協働を進めていくことが大切です。滋賀大学教育学部ではこれらの取り組みを進めています。150年前も今もこれからも、教師は「人のために、力を尽くす存在」であることに変わりはありません。子どもたちが未来を切り拓いていけるように、寄り添い、共に歩む教師をこれからもここ滋賀大学教育学部から輩出していきます。



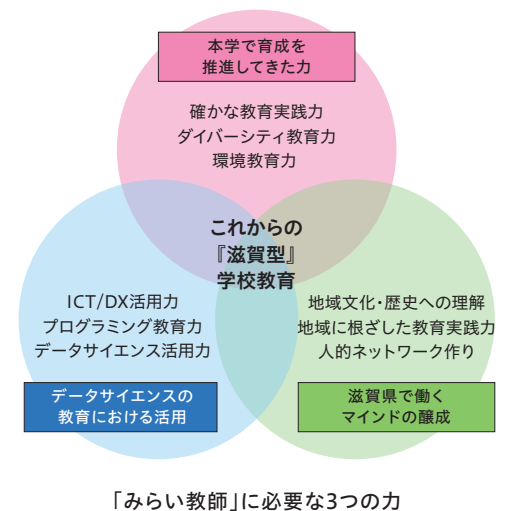
## 教育学部は進化し続けます。 教育学部創立150周年

### TOPICS 教育データサイエンス/ICT/DX活用による地域教育の転換と地域教員マインドの醸成

## 01 これからの「滋賀型」学校教育を担う教員を養成

滋賀大学教育学部では、文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部機能強化事業」で、「教育データサイエンス/ICT/DX活用による地域教育の転換と地域教員マインドの醸成」事業を展開。高校生を対象に滋賀県で教職に就くことの魅力を伝えるための講座として、大津キャンパスで実施する「教職探究講座」や高校で実施する「みらいの先生養成セミナー」を開講しています。また、学校推薦型選抜において、地域の高校生を対象にした「地域枠」選抜の募集人員を拡充し、その入学予定者には入学前学習を、入学後には、「地域教員養成プログラム」を実施します※。このプログラムでは、通常のカリキュラムに加え、地域課題探究型の演習やプロジェクト等の独自の学びが盛り込まれた「みらいの先生育成プロジェクト」を実施します。さらに、データサイエンスやICT活用を実践的に学ぶ授業を開講し、教育現場での即戦力となるデータサイエンスに関わるスキルの修得をめざします。

※一般財団法人公立学校共済組合友の会が実施する令和8年度給付型奨学金支給事業「未来の先生応援プロジェクト」に滋賀大学は採択されています。



「みらい教師」に必要な3つの力

### TOPICS 「ダイバーシティ教育専門科目群」履修プログラム

## 02 学びの場における課題解決力を身につける

教育の現代的な課題に対応できる、実践的な教師の養成をめざす取り組みの一つとして、「ダイバーシティ教育専門科目群」履修プログラムを2024年度よりスタート。国際理解、特別支援、いじめ・不登校問題、幼小連携の領域を専門的に学ぶことで必要な知識を身につけ、教育現場において複合的な教育課題を解決することができる人材の養成を目的としています。プログラムは講義7単位の取得、活動(体験)によって構成され、活動(体験)では、滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」の活動支援に取り組むことが特徴です。修了者にはデジタル証明(オープンバッジ)が授与されます。



「おとさぼ」主催によるファミリーコンサート

### TOPICS 教育データサイエンティスト養成プログラム

## 03 教育現場でデータを扱う人材を体系的に育成

データサイエンス・AI、プログラミング、情報技術に関する知識を有し、初等・中等教育でそれらを教えるほか、教育に関するデータ処理分析を通して、教育・学習の有意義な在り方や、改善方法を見出すことができる人材育成をめざす「教育データサイエンティスト養成プログラム」を実施しています。教育データサイエンス、統計学、情報学等の14単位を取得した者は「准教育データサイエンティスト」として認定され、デジタル証明(オープンバッジ)が授与されます。さらにITパスポート試験など指定試験のいずれかに合格し、統計検定3級以上に合格すると「教育データサイエンティスト」に認定されます。



プログラミングの授業の様子



### 150周年ロゴを学生が作成しました！

滋賀大学の「S」を基盤に、琵琶湖の形状や滋賀県の象徴である琵琶湖大橋を取り入れ、地域に根ざした柔軟な人材育成の理念を表現しました。深い青色は、琵琶湖をイメージしています。曲線を活かしたデザインにより、調和と温かみのある学びの場としての滋賀大学の雰囲気を表しています。



高島 すみれさん  
教育学部 学校教育教員養成課程  
中等教育コース美術専攻  
岡山芳泉高校(岡山県)出身



研究者・企業・自治体・学生で叶える未来社会創造の場

# イニシアティブ棟が始動！

データサイエンス分野で国内トップレベルの教育研究を推進する滋賀大学・彦根キャンパスに、企業や自治体、そして研究者と学生が自由に交流、協働する場として、データサイエンス・AIイノベーションの地域中核拠点が誕生。学生が利用できる1階の「未来創生フロア」をカモンちゃんと学生が紹介します。



## 彦根キャンパスに「データサイエンスみらい創造館」を建築中

我が国のデータサイエンス・AI領域におけるイノベーションをリードする本学の「データサイエンス・AIイノベーションコモンズ構想」のもとで、さまざまな施設整備を進めています。現在は、2026年秋のオープンをめざして「データサイエンスみらい創造館」の建設を進め、文理融合型人材育成を図る全学的な数理データサイエンス・AI教育と高度データサイエンス・AI専門人材育成機能強化に向け、教育環境の拡充に取り組んでいます。館内には、450人収容の講義室や大学院生の研究室が整備される予定です。



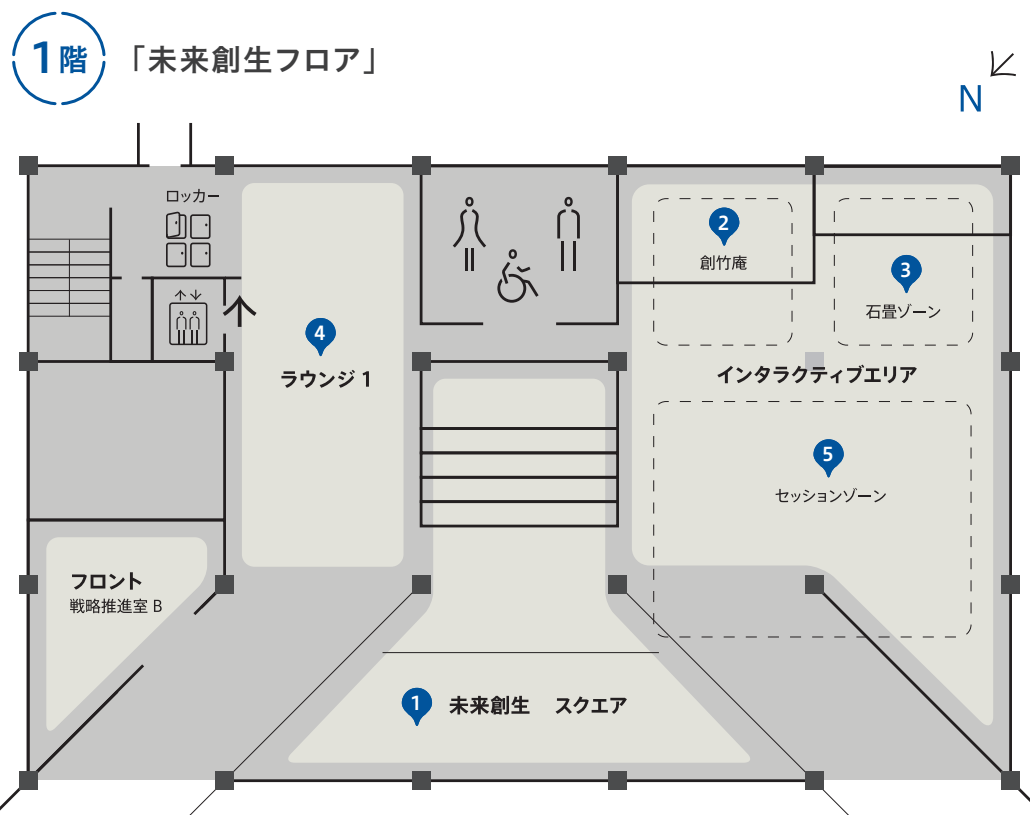
データサイエンスみらい創造館の完成イメージ



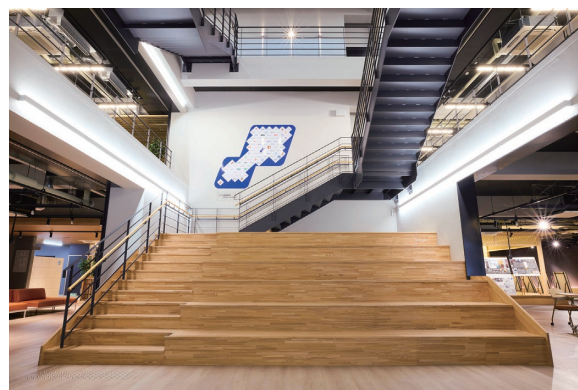
イニシアティブ棟は1階の「未来創生フロア」のほか、企業同士がコラボ、研鑽をしながら技術創造をする2階の「オープンイノベーションフロア」、課題解決、基礎研究を目的とする共同研究員たちが研究力を磨く3階の「クリエイティブフロア」で構成されています。

平日は夜10時まで利用できる場所ができてうれしい！

カモンちゃん倶楽部※  
都築 南歩さん  
半田高校(愛知県)出身  
※カモンちゃんのPR活動等を行う公認団体。



## 1 未来創生スクエア



学生同士、学生と教員、学生と企業、企業と教員が交流するスペースです。イベント開催時にはステージとなり、続く階段スペースを客席として活用することができます。

リラックスできるスペース

友人とも利用しています



## 4 ラウンジ



カウンターテーブルや一時保管ロッカーなどを備えた共用スペースは、来訪者を迎える応接スペースの役割も担っています。ゆとりと交流をはぐくむ多目的空間です。

## 3 石畳ゾーン



コンセントが多いのもいいなりね！

滋賀大学公式キャラクター  
カモンちゃん



## 5 セッションゾーン



個人学習やグループでのディスカッションはもちろん、小規模なイベントやワークショップにも対応。学生同士のつながりや創造的な活動を支援する場です。

人数に合わせてレイアウトを変えられるのが便利



## 2 創竹庵



「創竹庵」「石畳ゾーン」は海外の研究者との交流も想定した和風モダンなスペース。イベントの開催や展示スペースとしても活用されています。

## 館内でイベントも行っています

1階の未来創生スクエアでは、随時、イベントを実施しています。詳細は館内のデジタルサイネージをご確認ください。申請が必要なエリアを利用希望の方は、お問い合わせください。

●イニシアティブ棟フロント  
滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター 戦略推進室  
TEL:0749-27-1266  
E-mail:dser-center@biwako.shiga-u.ac.jp



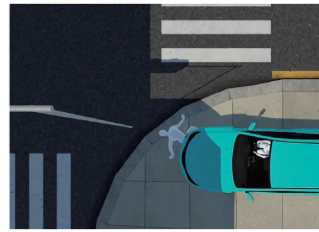
# しがたい Challengers

大学で、そして海外で学び、社会を見つめる学生たち。  
今回はそんな3名の学生の挑戦に迫ります。



## データサイエンス学部

宮村 碧さん  
星城高校(愛知県)出身



### My challenge

## VRアプリの 製作

### 交通事故を体感、 データの活用も

ゼミの研究で交通安全VRシミュレーションの製作を行いました。現実の事象を再現し、交通事故をゲームのように体験するシミュレーションです。運転手のミスや状態によって事故となる可能性があり、仮に歩行者である自分に一切の非がなくても、事故でケガをしたりしてしまっは元も子もありません。そのため、ユーザー体験型アプリで事故の起こりやすさ、怖さを実感していただき、さらなる安全教育につなげることを目的としています。また、車や被験者の位置、頭の動きがCSV※に出力されるため、それを利用して分析することができます。そして、被験者の動き方によって、結果にランダム性が生まれるのも特長の一つです。

※データの項目をカンマ(,)で区切り、テキストファイルで保存した形式のこと。

### バグの修正を通じて コードをより深く理解

このアプリを製作した際、さまざまなバグがありました。特に、VRアプリ製作が初めてだったこともあり、カメラや操作のさせ方など、わからないことが多く、大変でした。そして、多くのバグ修正を通して、どのコードが不具合を起こしているかを見つける能力が磨かれました。今後、学外で発表する機会が増えていくため、社会実験やアンケートなどを行うことを目標としています。

### 〔滋賀大の好きなところ〕

所属している「卓上ゲーム研究会」では、いろいろな人とボードゲームで遊ぶことでコミュニティを広げることができます。

### My challenge

## 海外フィールドワーク

### “何ができるか”を考えるきっかけに

ネパールで孤児院を運営されている日本人の方が主催するフィールドワークに参加し、アジア最貧国といわれるネパールで貧困問題や教育問題、人々の暮らしについて学びました。孤児院では、素直にたくましく生きる子どもたちからたくさん刺激を受けた一方で、子どもたちの背景や抱えている辛い過去が少しも伝わってこなかったことが印象的でした。私は、彼女らに何かしてあげたいという気持ちが強かったのですが、逆にたくさんのも



〔滋賀大の好きなところ〕 先生との距離が近いこと。一人ひとりに親身になって相談にのってくださり、のびのびと学びを深めることができます。

のを受け取り、今ある幸せに目を向けることの大切さを子どもたちから学びました。

### 世界の環境や教育を 今後も学び続けたい

他にもスラムやカースト制度、村でのホームステイを経験し、今の日本の暮らしでは考えられない光景をたくさん目にしましたが、どんな環境下でも懸命に生きる人々の姿を見て、私たちに何ができるのかを考えるきっかけとなりました。世界の現状を自分の目で見て、肌で感じる。自分の知らない場所で何が起きているのか、知りたいと思ったことに挑戦できるようになりました。今後は大学のプログラムにも参加し、他の国の環境や教育に関しても実際に見て学び続けたいと考えています。

### My challenge

## 海外インターンシップ

### 商習慣の壁をチームワークで打破

「専門性を発揮して世界を動かす仕事がしたい」。この目標を胸に、グローバルゼミでファイナンスの専門性を徹底的に鍛えました。その後、1年間の休学を決意し、フィリピン留学とウガンダでのインターンシップに挑戦しました。ウガンダでの3ヵ月間のインターンシップ先は、現地の物流企業です。特に、医薬品にアクセスできない地域に向けた、コールドチェーン事業の立ち上げを目標に奮闘しました。当初は医療



機関に営業を試みるも、目先の利益を優先する商習慣の壁に阻まれ、門前払いの連続。しかし、現場社員を巻き込んでオペレーションを改善した結果、チームワークの良さが評価され、悲願の新規契約を獲得できました。

### 今も心に残る、同僚からの 「いつでも戻っておいで」

営業当初は、契約をとりたて一心で孤軍奮闘し、打ちのめされる日々でしたが、同僚と共に収益化も達成することができました。当初は仲違いするも、最も信頼できる友人になった同僚からの「Mr. Japanese いつでも戻っておいで」という言葉が今も心に残っています。海外経験を活かして、来年からは内定をいただいた総合商社でグローバルな課題解決に挑戦します。

〔滋賀大の好きなところ〕 経済経営分野に留まらず、データサイエンス分野など、文理融合で学際的に学べる環境が整っているところです。



## 教育学部

平岡 優惟さん 石山高校(滋賀県)出身



## 経済学部

石田 暉さん 名城大学附属高校(愛知県)出身



# 輝く卒業生たち

甲賀市立綾野小学校  
まの もえ  
**眞野 萌さん**

## Profile

滋賀県出身。2023年3月教育学部初等教育コース初等教科専攻体育専修卒業。同年4月甲賀市立綾野小学校着任。現在、6年生を担当として受け持ち、体育主任として同校の体育授業計画、運動会や球技大会などの企画・運営も行う。甲賀市の体育授業研究会では、学生時代にも取り組んだ「マット運動のコツと指導法」について発表。自身が長年打ち込んできたバレーボールの課外活動にも力を注ぐ。

## 大学での学びや経験を活かし 児童全員が楽しく勉強できる授業を

### 子どもとのふれ合いに感動し 小学校教員に目標を変更

小学生から続けてきたバレーボールの指導者になりたい気持ちもあり、高校の保健体育の教員をめざして地元の滋賀大学教育学部に進学しました。しかし、3年生で行った小学校での教育実習で、短い実習期間ながら日々成長していく姿に感動。子どもたちとより長く深く関わっていきたいと思い、目標を小学校教員に変更しました。

経験は、私の教師としての土台になっています。教師になった今は、児童それぞれの得意・苦手を見極めながら、みんなが興味を持って学べる授業を計画し、クラスと一緒に授業を作っていくことも大切にしています。私が想定していた内容と異なる意見が子どもたちから出ることがありますが、そうした視点や発想を尊重し、伸ばしていくことも心がけています。

### 小学校生活6年間で向き合う 子どもとの関係性は多様

教師として3年目を迎え、現在は6年生の担任をしています。1年目は2年生、2年目は4年生の担任をしましたが、幅広い年齢・成長段階に向き合えることは、小学校教員の魅力のひとつです。低学年・中学年の子どもにとって教師は保護者に近い存在、



一方、高学年になると話す内容も多岐にわたり、大人同士とあまり変わらない関係性になっていると思います。こうした子どもとの関わりを含めた学級経営や指導には、体育専修での学びや、卒業研究でテーマにした「小学生の体育授業における社会性を育むための教師行動」の内容が活かされています。体育授業での整列や、スポーツのルールなどの規律、チームワークは社会性を育むために必要な要素だと改めて感じています。

### 滋賀大学教育学部出身の 教師のロールモデルに

現在勤務している小学校では、大学時代に所属していたバレーボール部の仲間の一人と机を並べて働いています。偶然の着任とはいえ、とてもうれしく、一緒にバレーボールを教えるなど切磋琢磨できる関係が続いています。他にも教育学部出身の先生が在籍しており、大変心強いです。また、学生時代のゼミの先生は私のあこがれの存在であり、今も何かあれば相談させていただいています。滋賀大学で教員をめざしてよかったと改めて実感し、次は私が教育学部出身の教師としてのロールモデルになれるよう努力していきたいです。



フリーランス  
すが まさえ  
**菅 昌絵さん**

## Profile

宮崎県出身。2022年3月経済学部企業経営学科卒業。在学中にカナダに渡り3年間滞在、現地でブライダルプランナー・フォトグラファーのアシスタントとして働く。現在は東京を拠点にフリーランスとして活動し、食とサステナビリティ分野で企業の広報支援やマッチング業務に携わる。第二の故郷である彦根には今も定期的に通っている。

## 大学を休学して海外へ。 自分らしい選択を重ねて辿り着いた、人をつなぐ仕事

### カナダ就労経験で深めた学び 復学から新たな道へ

理系高校から文系進学を決め、進路指導の先生に相談したところ、滋賀大学経済学部は歴史も実績もあることから受験を勧められ、進学しました。入学後は、経済の学びと並行して、学内の国際交流課で留学生との交流に力を入れていました。1年生でフィリピンに語学留学、3年生でカナダへ。ワーキングホリデー開始時点で英語での会話には困らない状態でしたが、それでも移民国家である現地での就労生活からは学ぶことが多く、さまざまな文化について理解が深まるにつれておもしろさを感じ、移住をめざすようになりました。就労ビザを取得して本格的に働き始めましたが、永住権の審査条件は高頻度で変動し、働き続ける中で大学卒業資格の必要性を実感したため帰国、復学しました。卒業後すぐにカナダに渡るつもりでしたが、復学2年目の4年生の時にコロナ・パンデミックが発生し、かなわないものとなりました。ショックでしたが、今、私にできることをしなければと奮い立ち、インターネットの求人や自らのネットワークを駆使して、帰国子女の家庭教師と、起業家への英語学習メンタリングの仕事オンラインで始めました。



### 帰国子女教育を経て、企業や 人をつなぐクリエイティブ職へ

卒業後は海外経験を活かし、まず帰国子女教育に従事。世界各国で暮らす日本人や日本にルーツのある生徒・家族のサポートを行いました。その後フリーランスとなり、現在はサステナブルな食の開発に関わる人々を国内外で支援する企業で「リレーションシップデザイナー」として働いています。業務内容は、同じ志を持つ人々のコミュニティ形成、関連イベントの開催、企業間アライアンス支援などです。決まったテンプレートに収まらず、都度柔軟でクリエイティブな思考が求められる現場だからこそ、自分が見つけない企業同士のコラボレーションが実現すると大変うれしく、やりがいを感じています。異なる境遇にある企業の方々との対話において、大学で学んだ経済学の基礎知識

とカナダでの経験で培った多角的な視点が活かされていると感じます。

### 滋賀大学に進学したから 今の私がある

私は一般的なキャリアパスとは異なる道を歩みましたが、留学を後押しし、復学後には滋賀大学で学ぶ留学生の通訳アルバイトを紹介いただいたりと、先生方の温かいサポートには、今も感謝しています。人生は一度と思い切り、自分と向き合い行動したことでどんな選択も納得して取り組み、充実した日々を送れるようになったと感じています。学生の皆さんには、迷った時こそ一度立ち止まって自分の本心に耳を傾けることをお勧めします。後悔なく、自分で選んだ道を進んでほしいです。私でよければいつでも相談にのりますので、気軽にお声がけください。



花王株式会社  
かとうありさ  
**加藤 有紗**さん

## Profile

愛知県出身。2021年3月滋賀大学データサイエンス学部卒業。同年4月花王株式会社に入社。同年8月に情報システム部門アナリティクステクノロジーグループ、2025年1月デジタル戦略部門データアナリティクス部に配属され、同部門ではアプリ開発を中心とした新人研修も担当。大学生生活で遠距離通学をしながら、学業と未経験からのバスケットボール部での活動に取り組んだことが、現在の糧となっている。

## 課題発見からデータを深掘りする データサイエンスは「人間が考える仕事」

### 夢を実現できる データサイエンスとの出会い

高校時代から将来は化粧品会社に就職したいと考えていました。化粧品業界について調べていたところ、研究開発やマーケティングといった基幹事業にビッグデータの活用が始まっていることを知りました。それと同時に滋賀大学に日本初のデータサイエンス学部(以下、DS学部)が創設されると聞いたのです。私は文系でしたが、「データの知識を獲得すれば強みになる」と進学を決意。DS学部は文系でも受験できる点も魅力でした。入学後は、統計学や線形代数といった数学系の科目は難しかったですが、先生の授業がわかりやすく、さらに理系出身の友人たちが教えてくれたおかげで理解が深まりました。

### 課題の仮説から実践までを 完遂する分析力を獲得

在学中に最も注力したのは、所属した河本薫先生のゼミでの企業連携型PBLです。企業から課題とデータを提供いただき、解決策を提案するもので、私はある商業



施設のアプリのデータから、顧客離反を防ぐための施策立案に取り組みました。顧客の動きをグルーピングし、その特性や離反に至る段階を分析。離反が予想される顧客に対するアプリのログインや購買金額などの数値目標を設定し、対象顧客へのクーポンやコンテンツを提案したところ、企業側から評価いただくことができました。他にも製造、教育などさまざまな企業の課題に取り組んだことで視野も知識も広がり、データを深掘りして新たな価値を生み出す力が身につきました。

### データサイエンティストとしての アドバンテージを実感

学部での充実した学びもあり、志望していた化粧品を扱う会社にデータサイエンティストとして入社できました。化粧品だけでなく日用品やケミカル製品などの事業も展開し、研究開発からロジスティクス、マーケティング、販売まで自社グループ

で行っており、分析するデータが多岐にわたることが特徴です。業務では関係者とのコミュニケーションを大切に、データサイエンティストとして先入観なくデータを見て価値提案できるよう心がけています。それによって喜んでもらえることがやりがいです。また、データサイエンスは現時点では依然として「人間の仕事」であると感じています。単にデータを見て、プログラミングするのであれば、今は生成AIである程度、対応できます。しかし、会社や市場の動向、関係者とのコミュニケーションなどから課題の真のボトルネックを見つけ出し、仮説を立ててデータを紐解き、解決策を構築するのは人間にしかできません。こうした思考とスキルで仕事に取り組めるのはDS学部で学んだからこそ。今は企業でも社会でもデータ活用が当たり前になっていますが、身についた理系の数理的理論、文系の社会的思考、新たな価値の創造性が私だけの強みになっていると思います。

## 活躍する研究者たち

### Researcher's File

## 日常の意思決定にも関係する考え方で 経営の問題を経済学で捉える学問

山下 悠 Yamashita Yu

経済学部准教授。博士(商学)。研究分野はビジネス・エコノミクス。2013年に滋賀大学に着任し、2014年1月より現職。フランチャイズ・システムによる事業展開や、フランチャイズ本部と加盟店が交わす契約の項目に関する研究を行っている。

### Q. ビジネス・エコノミクスとはなんですか？

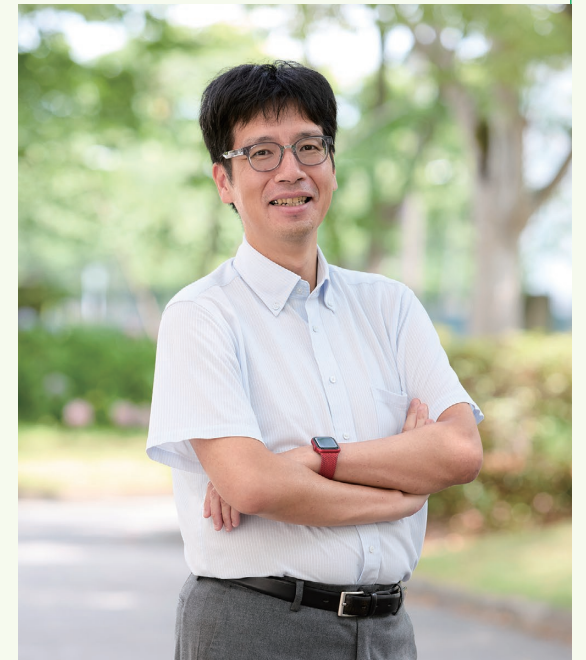
専門とするビジネス・エコノミクスは、経営における問題をお金の流れから捉える経済学の応用分野です。例えば商品の価格は、生産者や小売業者が「この商品はいくらかで売るべきか」を判断して決定されています。しかし、商品の価値は人によって感じ方が異なるため、価格はその目安として機能します。私が大学の自動販売機で190円の飲料を買ったとき、「この飲料には190円以上の価値がある」と私が判断して買ったと考えるのが、経済学の考え方です。こうした日常の意思決定には、ビジネス・エコノミクスの考え方が深く関わっており、この学問が私たちの暮らしの中に自然と息づいていることに気づかされます。

### Q. 経済学との出会いを教えてください

現役時代は理系で数学が最大の得意でしたが、化学が苦手で文系に転向し、文系学部で数学を活用できるならと神戸大学経営学部に入學しました。大学入学後、ある講義で「ミクロ経済学」や「ゲーム理論」を用いた企業行動の分析方法を知り、のめり込んでいきました。そして、その講義の担当教員であった丸山雅祥先生に師事し、現在のビジネス・エコノミクス研究へとつながっていきます。経営学部では、公益事業や国際交通をミクロ経済学で分析する講義も開講されていましたが、あまり魅力に感じず、消去法的にビジネス・エコノミクスを選択しました。しかしながら、自然と興味関心の高い分野を選択することになったと思っています。

### 先生がいま、夢中なこと

多趣味な私ですが、今一番没頭しているのは「ウルトラワーク」です。100キロを24時間ほどかけて歩く長距離ウォーキングで、計画の立て方にはゲーム理論の考え方が役立ちます。残りの距離と時間から休憩ポイントを見極めたり、疲労による判断力の低下も考慮に入れるなど、まさに実践の場です。運動以外では麻雀部の顧問も務めています。生協前広場で学生と青空麻雀を打つこともあり、リスクと運のバランスを考える楽しさがあります。運動と頭脳、それぞれ違う楽しみ方でリフレッシュしています。



### 取材を終えて 📷

「経済学は社会に出た時に一番役に立つ学問である」という言葉に、最も強く共感しました。経済学は非常に幅広い分野とつながっており、いろいろな切り口の学びがあると実感しています。特にビジネス・エコノミクスが、私たちの購買意欲や意思決定に深く関わっていると知り、驚きました。これを機に、自分がどうしてその選択をしているのかを、改めて考えてみたいと思います。

-  **大西 諒さん**  
経済学部  
石山高校(滋賀県) 出身
-  **勝川 譲さん**  
経済学部  
石山高校(滋賀県) 出身
-  **岡本 紗穂さん**  
経済学部  
堅田高校(滋賀県) 出身
-  **前田 偉汰さん**  
経済学研究科  
済美高校(岐阜県) 出身

●この取材は、「学生広報サポートチーム」が担当しました。詳細はP2をご確認ください。



# Study abroad 滋賀から海外へ 留学体験記

滋賀大学では、海外での学びを支援するために、さまざまな制度を設けています。  
今回は、交換留学制度を利用した学生に話を聞きました。



西田 宗一郎さん  
経済学部 茨木高校(大阪府) 出身



## ノルウェーでの学生生活は 自分を見つめ直す機会になりました

●交換留学(2025年1月～6月)

### 〈留学準備〉

サウスイーストノルウェー大学に留学された先輩から、教育や福祉が充実した北欧社会での生活の話を聞き、日本とは異なる価値観にふれたいと、交換留学制度の応募に踏み切りました。国際交流課には現地の大学への推薦や、過去に留学された先輩につないでいただいたことで、現地での授業や生活を具体的にイメージし、安心して準備を進めることができました。

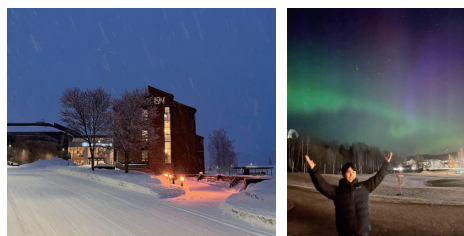
留学準備で注力したのは、スピーキングです。渡航の5ヵ月前から毎日25分のオンライン英会話によって日常会話に慣れ、英語での反応速度を高めることをめざしました。また、ノルウェー語で簡単な挨拶や自己紹介ができるよう、出発前に独学で学習しました。

### 〈ノルウェーでの学生生活〉

学びで特に印象的だったのは、1科目につき5時間に及び期末試験です。「グローバルマーケティング」の試験では、講義中のケーススタディやディスカッションをもとに、与えられた問いに対して論理的に英語で構成を練り、理論を用いて自分の意見を展開する必要があります。日本でのアカデミックなエッセイやIELTS※のライティング対策が活き、自分の力で学術的な課題に取り組めたという実感が、大きな自信につながりました。

ノルウェーの憲法記念日である5月17日に、ノルウェー人の友人の集まりに参加したことも思い出深いです。朝はゲームや会話を楽しみ、昼はパレード鑑賞、夕方からはバーベキューという1日がかりのイベントで、この国の生活文化を五感で体験できました。地域の人々との関わりの中で異文化交流の意義を感じ、その後は現地コミュニティに積極的に関わろうという意識が高まりました。

※海外留学や研修のために英語力を証明するための試験。  
正式名称はInternational English Language Testing System。



憲法記念日の集まりの様子(上)、冬の大学(下左)とオーロラ(下右)

### Advice 留学を終えて

多様性の中で自分を見つめ直し、「マイノリティ」の立場になることで、少数派の視点や孤独感を実体験として理解できました。自分の意見を持ちつつも他者と共存する柔軟さが身についたと感じます。将来は、日本と世界のビジネスの橋渡しとなり、多様な背景を持つ人々が安心して暮らせる社会づくりに貢献したいと考えています。そのためにも、今後も新しい環境に積極的に飛び込み、実践を重ね、自らの専門性を高めていきたいです。

### 🌐 交換留学制度とは

滋賀大学は、世界の14の国・地域にある24の大学等の機関と、全学レベルの学生交流協定を締結し、学生の交流や教育研究などの相互教育をはかっています。学部2年生以上で派遣条件を満たす学生は、交換留学を利用して、1年以内の留学を行うことができます。

- ✓留学先大学で修得した単位が、所属学部の審議を経て認定される場合があります。
- ✓留学期間(1年以内)は本学の修業年限および在籍期間に参入されます。
- ✓滋賀大学に授業料を納めることで、留学先大学の授業料は免除となります。
- ✓留学にかかる費用の一部を支援する制度があります。

●留学や短期海外研修の相談は国際交流課まで E-mail:kokusai@biwako.shiga-u.ac.jp



サウスイーストノルウェー大学

## チームワークを大切に レベルアップを図る

▶▶彦根キャンパス

## 硬式野球部

硬式野球部は京滋大学野球連盟に所属し、野球への情熱を持った30名の仲間と共に、チーム一丸となって練習しています。平日はグラウンドでのバットング練習、守備練習を中心に活動し、土・日曜には学内練習のほか、他大学とのオープン戦を行っています。技術向上はもちろん、学年を超えたチームワークを大切にしています。春季リーグ戦では2部降格という悔しい結果に終わりましたが、メンタル面の強化や戦術理解の向上にも取り組み、9月から始まる秋季リーグ戦での1部昇格をめざして、全体でレベルアップを図っています。野球を通じて培われる絆や経験は、大学生活の貴重な財産です。日々の厳しい練習を乗り越え、仲間と共に成長していく過程こそが、私たちにとって何よりも価値ある時間であり、この経験が将来への大きな糧となっています。応援し支え続けてくださっている方への感謝を忘れず、再び1部の舞台に立てよう努力を重ねていきます。



野球による社会貢献事業にも関わっています

### 京滋大学野球連盟リーグ戦

#### 2024年度の活動

|        |        |           |
|--------|--------|-----------|
| 4月～6月  | 春季リーグ戦 | 2部優勝 1部昇格 |
| 9月～10月 | 秋季リーグ戦 | 1部6位 1部残留 |

#### 2025年度の活動

|        |        |           |
|--------|--------|-----------|
| 4月～6月  | 春季リーグ戦 | 1部6位 2部降格 |
| 9月～10月 | 秋季リーグ戦 |           |



# pick up CLUB & CIRCLE

120以上ある課外活動の団体から、2団体を紹介します。



オープンキャンパスでは「知って、見て、聞いて! 学校探検&学生相談会」を実施



#### 主な活動

- 新入生先取り説明会
- 1年生企画
- 健康点検企画
- 食堂投票企画

新入生交流会の様子

## 学生の声を大切に 大学をコミュニティに発展

▶▶大津キャンパス

## 生協学生委員会Willing

生協学生委員会は、大学生協と学生・教職員の橋渡し役として、大学生活をより豊かにする活動を学生主体で行う団体です。日々の活動では、学期ごとの生協店舗の装飾や季節イベントの企画・運営、新入生歓迎会、教科書販売のサポート、食堂メニューの人気投票など、学生目線で大学の「日常」を彩る取り組みを展開しています。加えて、地域との交流や環境・健康に関する啓発活動、全国の委員会との連携イベントなど、キャンパスの枠を超えた交流も積極的に行っています。委員としての経験を通じて、企画力・調整力・リーダーシップ・仲間との協調性を養えるのも大きな魅力です。今後も、学生の声を大切にしながら、多様な企画に挑戦し、より温かく、笑顔あふれる大学生活を皆さんが送れることをめざして活動していきます。そして、私たちの歩みそのものが、「大学」という場を単なる学びの空間から、共に暮らし、共に考える“コミュニティ”へと育てていく力となることを願っています。



# ニュース & トピックス

滋賀大学の最新ニュースを  
YouTubeで毎週、発信しています。



滋賀大学の取り組みや学生の活動といった、注目のニュースをお届けします。  
最新情報は随時、YouTubeでも発信しています。こちらもぜひご覧ください。

## 国内初OpenAI社の ChatGPT Eduを導入

□ 全学部

2025年4月より他の国内大学にさががけて、安全で最先端のAI技術を活用した高等教育機関向けのChatGPT Eduを導入し、大学院生と教職員を皮切りに利用を開始しました。実際に企業活動等で使用されている生成AI技術に学生の段階から触れる機会を提供し、実践的なスキルを身につけることができる質の高い教育環境を整備・実現していきます。



OpenAI Education Forum TokyoにてChatGPT Eduの導入について説明する竹村彰通学長

## 公共交通を軸とした地域活性化に向けて 近江鉄道と連携協定を締結

□ 全学部

2025年5月23日、本学と近江鉄道株式会社は連携協定を締結しました。この協定は、地域において100年を超える歴史を有する両者が連携・協力し、公共交通の利活用を通じて、観光をはじめとする沿線地域の活性化を図ることを目的としています。今後は、経済学部生による乗車利用調査や、データサイエンス学部生による専門的知見を活かしたデータ分析の支援、さらには訪日外国人観光客の沿線利用拡大に向けた調査などに取り組む予定です。



竹村彰通学長(左)と近江鉄道の藤井高明代表取締役社長

## 教育学部生が田植え体験 食・農・環境を学ぶ実践的プログラム

□ 教育学部

2025年5月10日・11日に滋賀県大津市の生産者、植村喜代司氏の圃場で、学生約240名が田植えを行いました。滋賀大学では食・農・環境について子どもたちに体験活動をベースとした教育を行うことができる教員の育成をめざして、大津キャンパス開講の「環境教育概論」の一環で教育学部の学生を対象に稲作の実体験を通した教育を行っています。田植えが初めての学生も多くいましたが、全員で協力し、きれいに植えることができました。学生は、自身が田植えを体験的に学ばばかりでなく、教師として指導する立場となったときに、体験的な活動やそれを通した学習をどのようにコーディネートしていくのかについて、考えながら活動を行いました。



田植えの様子



## 滋賀大学へご支援のお願い

本学では『滋賀大学基金』を設置し、学生の教育・研究、国際交流、修学、課外活動、データサイエンス教育研究の高度化など、滋賀大学を幅広く支えていただくご支援をお願いしています(税制上の優遇措置の対象です)。皆さまの温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 『滋賀大学基金』の種類

| 一般基金                        | ・学生の教育・研究や国際交流活動など、大学全般に対する幅広いご支援             |
|-----------------------------|-----------------------------------------------|
| (以下、特定基金：特定目的へのご支援)         |                                               |
| データサイエンス・AIイノベーション・コモンズ形成基金 | ・データサイエンス・AI分野のイノベーション・コモンズ(共創拠点)を形成するためのご支援  |
| 修学支援事業基金                    | ・経済的な理由で修学が困難な学生に対するご支援                       |
| スポーツ・文化活動基金                 | ・学生の課外活動に対するご支援(特定の部活動への支援を指定可)               |
| データサイエンス基金                  | ・データサイエンス教育研究の高度化に対するご支援                      |
| 経済学部基金                      | ・経済学部における教育研究活動に対するご支援                        |
| 経済学部基金(史料館)                 | ・経済学部附属史料館の史資料の保存・活用に対するご支援                   |
| 教育学部基金                      | ・教育学部における教育研究活動、創立150周年記念事業に対するご支援            |
| 附属学校園いまを生きる基金               | ・教育学部附属学校園の教育環境充実をはじめ、教育活動、創立150周年記念事業に対するご支援 |
| 藤村泰子記念基金                    | ・障害児者の音楽教育・音楽活動に対するご支援                        |

### 税制上の優遇措置が受けられます

個人からのご支援で寄附金が2,000円を超える場合は、確定申告によって税制上の優遇措置を受けることができます。

|     | 「修学支援事業基金」へのご寄附                                       | 「修学支援事業基金」以外のご寄附 |
|-----|-------------------------------------------------------|------------------|
| 所得税 | 「所得控除」または「税額控除」のうち、いずれかの制度を選択できます。                    | 「所得控除」を受けられます。   |
| 住民税 | お住まいの都道府県によっては「税額控除」を受けられます(都道府県・市町村が定める条例によって異なります)。 |                  |

## 滋賀大学基金ニュース

### ●令和6年度寄附総額

72,741,889円

皆さまからの多大なるご支援・ご寄附を賜り、厚く御礼申し上げます。  
賜りましたご寄附は、学生のために有効に活用させていただきます。

### ●ご寄附による活動報告(スポーツ・文化活動基金)

スポーツ・文化活動基金にはOB・OGをはじめ、多くの方からご支援をいただきました。  
大津キャンパス漕艇部へのご寄附では、ボート購入や備品の修繕など通常の活動に活用させていただきました。先輩方の温かい見守りとご支援は、学生たちの日頃の活動の大きな支えとなっています。今後とも心のこもったご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



詳しくは寄附金ホームページをご覧ください。

<https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/>

〈お問い合わせ先〉 滋賀大学基金室(総務課)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号  
TEL 0749-27-1004 FAX 0749-27-1129  
E-mail kikin@biwako.shiga-u.ac.jp

